

元村南自治会

15年ぶり夏祭りの復活

高齢化による役員の負担増等で約15年間行われていなかった「もとなん夏祭り」が平成30年度に復活。祭りの役割分担は、餅まきやスイカ割りは文化部とはなみずき会、焼き鳥・ポップコーンは防犯部と虹の会、フランクフルトは環境部。更に飲料は交通部と長生会、遊戯関係は子ども会と中学生、備品整備や届出関係は事務局と、自治会全体で祭りを盛り上げた。初年度は、地域にこんなにかたがたと驚くほど多くの人々が参加し、翌年はさらに大盛況だった。夏祭りの復活により、自治会内で子どもたちが活躍する場と世代間交流の場の創出ができた。



小中学生が活躍、もとなん夏祭り

みたけ支援学校との交流の場

平成18年から始まり、令和元年に14回目を迎えた「作品展示・手作り作品等販売」は、かつらぎ集会所で、開会セレモニーのテープカットを皮切りに2日間行われる。屋内では、自治会員、子ども会、みたけ学園みたけの園、みたけ支援学校生徒の作品が並び、屋外では、はなみずき会や自治会員手作りのアクセサリ類等の便利グッズや、焼きそば・焼き鳥の販売も行われる。作品の一部はふるさと交流館にも展示されることもあり、出展者のやりがいにつながっている。準備は文化部員、はなみずき会、子ども会世話人を中心に行い、子ども会がポスターを作成する等、全世代が協力し世代間交流や、地域学校との交流の場となっている。



力作ぞろいの作品展示会

防犯部「見守り話し隊」結成

高齢化に伴い、自治会内でも独居高齢者が増えてきたことから「見守り話し隊」を結成。防犯部員で構成された隊員が、民生委員と協力して高齢者世帯のお宅を訪問。日常生活や災害時不安に思うこと等をうかがい、もしもの時の対応策を考え、地域の「つながり」をつくる支援活動をしている。またこの活動の一環として、隣人サポート体制づくりを進めており、独居高齢者の隣近所に住む人が、日頃の変化や災害時の声かけなどをしていただけるよう、毎月1回発行している「もとなん防犯ニュース」の回覧などで協力を呼びかけている。高齢化社会だからこそ「地域での顔が見える関係」を大切に、今後も地域全体で取り組んでいきたい。



見守り話し隊と民生委員で訪問活動

今後の展望

今後目指すところは「安全で安心して生活できる住み良い地域環境（社会）づくり」。そのためには老若男女、隣同士、地区同志が優しく助け合い、支え合い、認め合うことが必要と考える。元村南自治会では、この考えのもと、自治会活動の在り方を検討し、つながりを大切にする心を育めるような活動に取り組んでいきたい。